

社会ニーズに関する調査結果

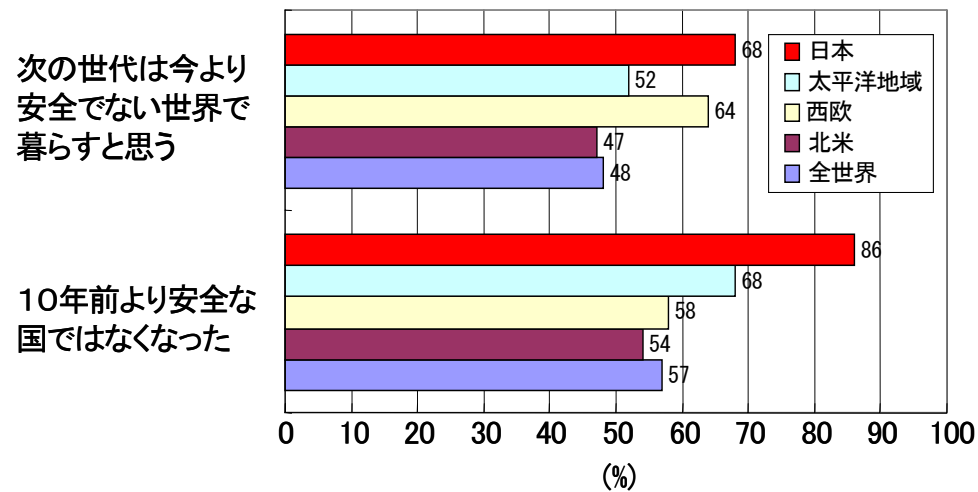
平成18年3月23日

1. 安全・安心な社会に向けた国民の意識

世界経済フォーラム「安全と経済的繁栄に関する国際世論調査」

調査期間 2003年11月～12月
調査対象 世界51カ国の国民(詳細不明)
標本数 43000人
調査方法 国により異なる(主に電話および対面調査)

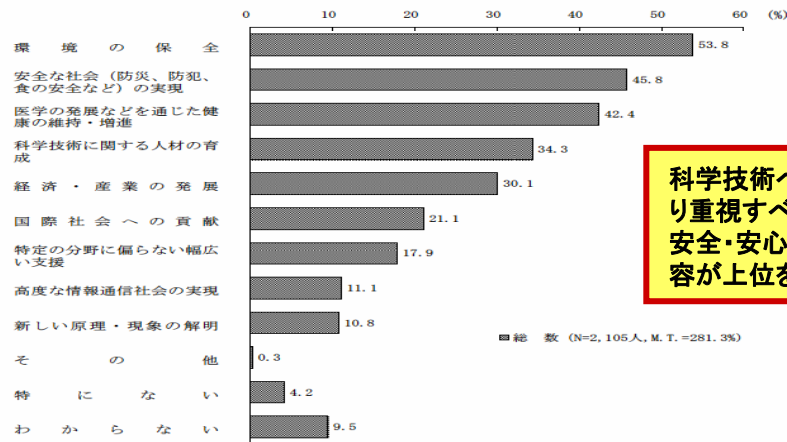
日本と世界各地域における安全に対する意識の違い



2. 安全・安心な社会の構築に対する科学技術への国民の期待

科学技術への支援に当たり重視すべき点（複数回答）

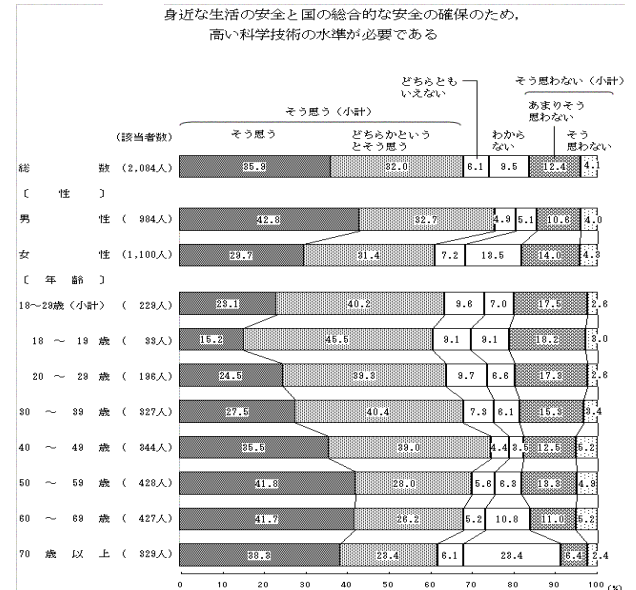
- ・環境の保全 53.8%
- ・安全な社会（防災、防犯、食の安全など）の実現 45.8%
- ・医学の発展などを通じた健康の維持・増進 42.4%
- ・科学技術に関する人材の育成 34.3%



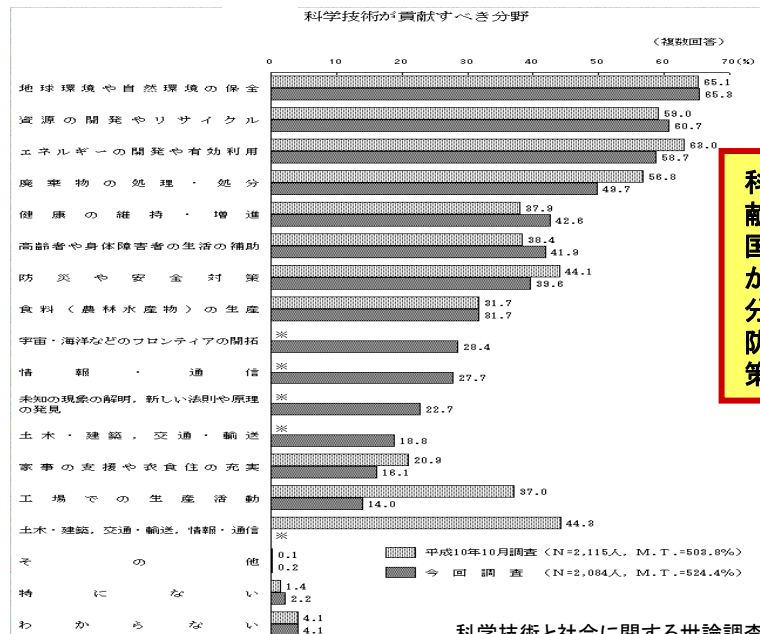
67%以上の方が、安全の確保のために高い科学技術水準が必要であると感じている

科学技術への支援に当たり重視すべき点について、安全・安心に関連した内容が上位を占める

科学技術に関する特別世論調査（平成17年5月）

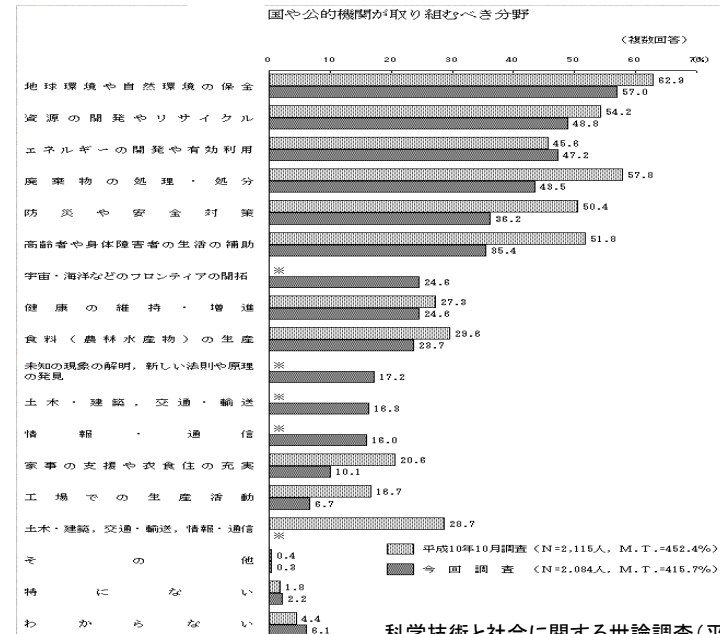


科学技術と社会に関する世論調査（平成16年2月）



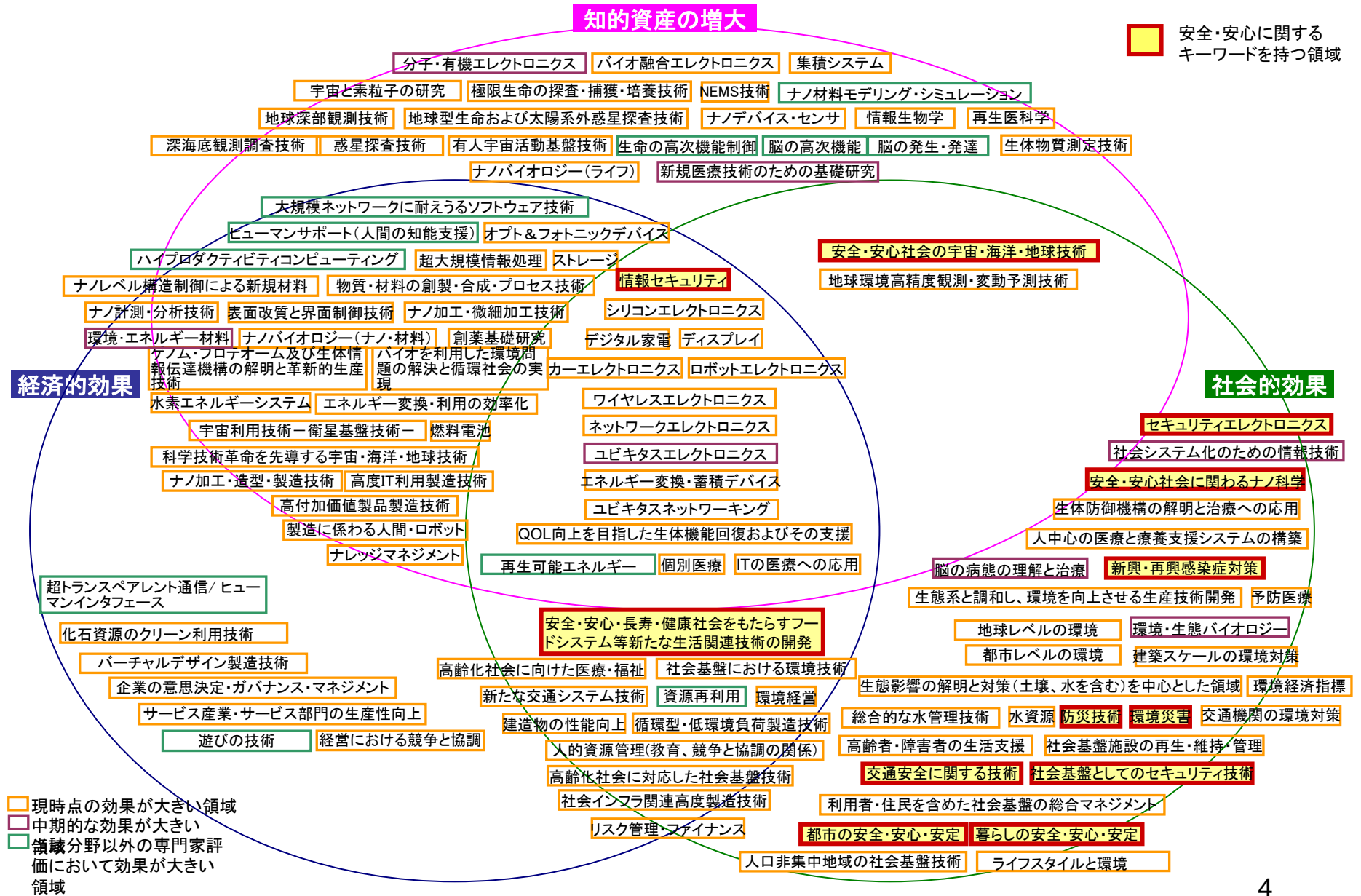
科学技術が貢献すべき分野、国や公的機関が取り組むべき分野についても、防災や安全対策が上位

科学技術と社会に関する世論調査（平成16年2月）



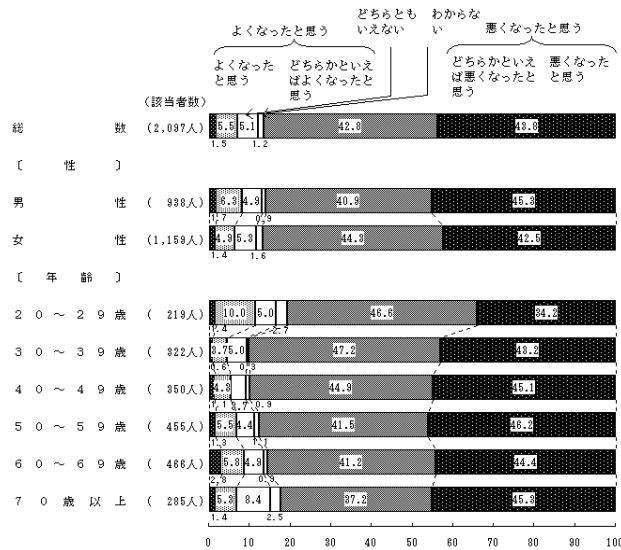
科学技術と社会に関する世論調査（平成16年2月）

3. 科学技術専門家アンケートに見る個別研究領域のもたらす効果

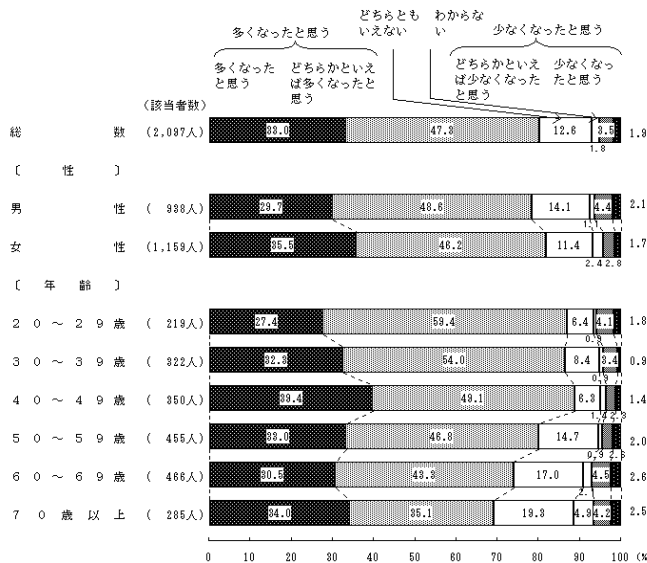


4. テロ・犯罪に関連するニーズ

最近の治安に関する認識

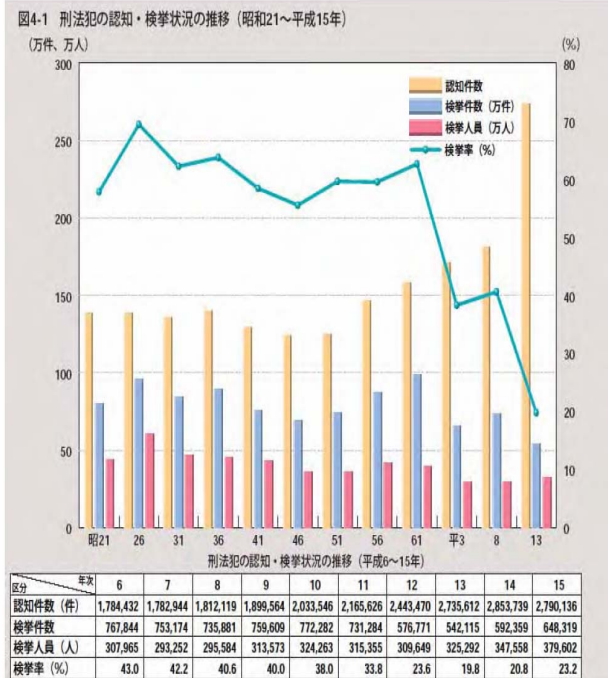


犯罪に対する不安の傾向



86%以上の方が治安が悪くなったと思っており、80%以上の方が犯罪が多くなったと思っている

治安に関する世論調査(平成16年7月)



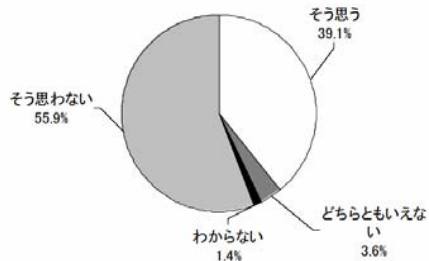
犯罪の認知件数の増加に対して、検挙率は大きく減少

(平成16年警察白書より)

[平成16年6月実施、全国20歳以上の者3,000人(有効回収数2,136人、回収率71.2%)]

1 今の日本は安全・安心な国か

- ・ そう思う
- ・ そう思わない



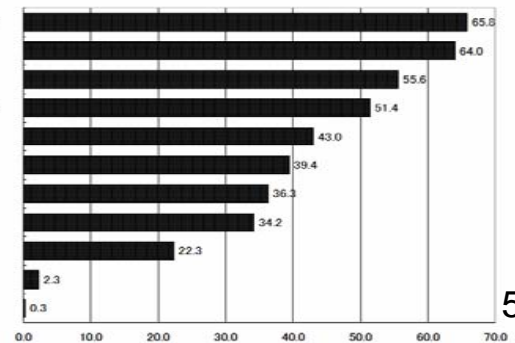
今の日本を安全・安心な国と思わない人が55.9%にのぼり、「安全・安心と思わない」と答えた人の多くが理由として「犯罪」、「テロ」をあげている

(2) 安全・安心でない理由(複数回答、上位4項目)
 (「そう思わない」と答えた者(1,196人)) (複数回答、上位4項目)

- ・ 少年非行、ひきこもり、自殺など社会問題が多発している
- ・ 犯罪が多いなど治安が悪い
- ・ 雇用や年金など経済的な見通しが立てにくい
- ・ 国際政治情勢、テロ行為などで平和がおびやかされている

平成16年6月
 65.8%
 64.0%
 55.6%
 51.4%

- (1) 少年非行、ひきこもり、自殺など社会問題が多発している
- (2) 犯罪が多いなど治安が悪い
- (3) 雇用や年金など経済的な見通しが立てにくい
- (4) 国際政治情勢、テロ行為などで平和がおびやかされている
- (5) 医療事故の発生など医療に信頼がおけない
- (6) 食品の安全がおびやかされている
- (7) 学級崩壊や学校の安全性の低下など教育環境が悪い
- (8) 社会の進歩感が弱い
- (9) 地震などの自然災害が起こるおそれがある
- その他
- わからない



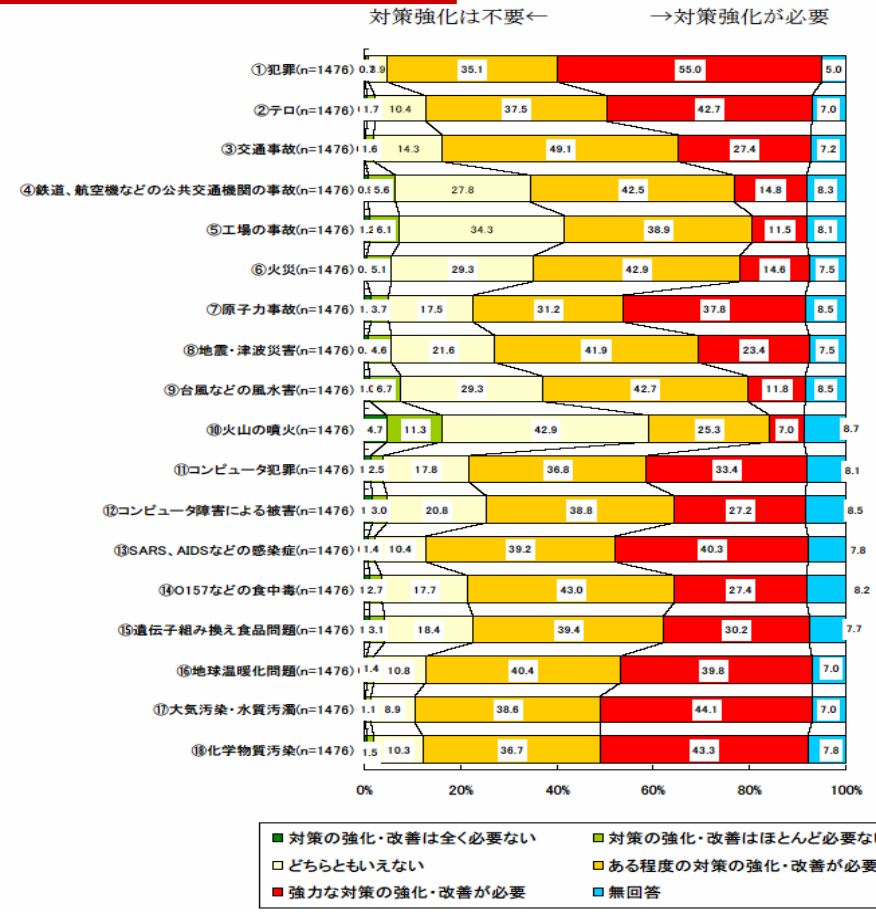
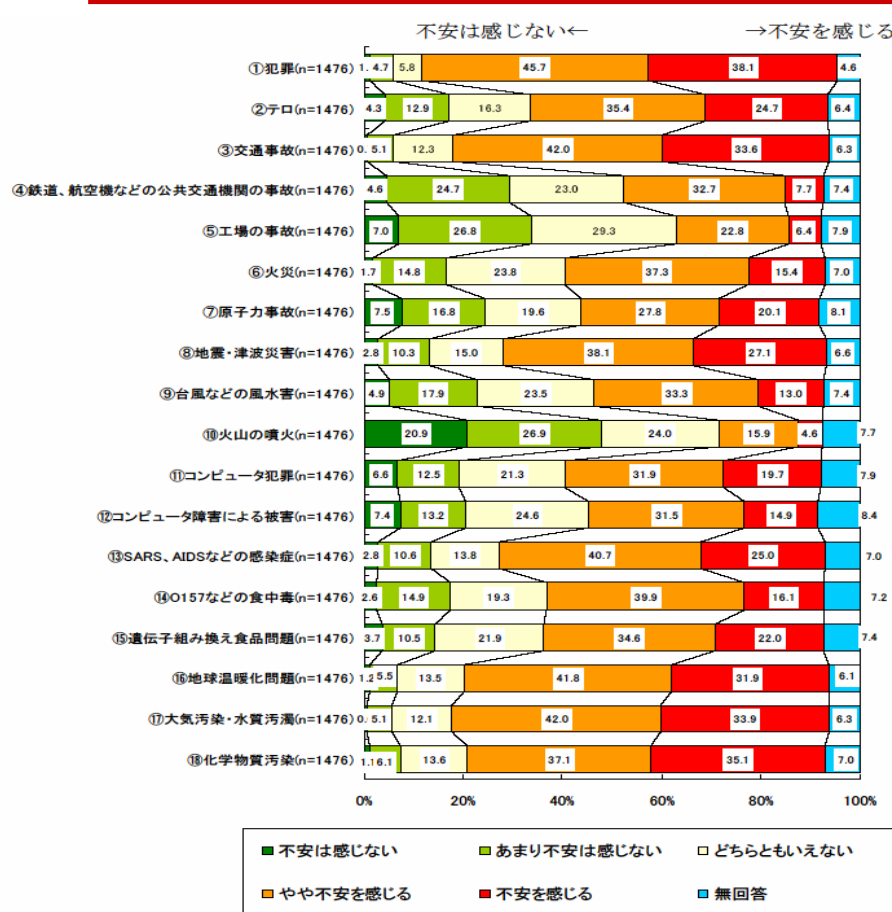
安全・安心に関する特別世論調査(平成16年6月)

国民アンケート結果

○手法:国民3,600人を無差別抽出(二層抽出法、電話帳DBを用いて全国60自治体から60人ずつ抽出)

○有効回答数:1,476通

犯罪・テロに対する不安感が高く、「強力な対策の強化・改善が必要」という回答も犯罪が1位



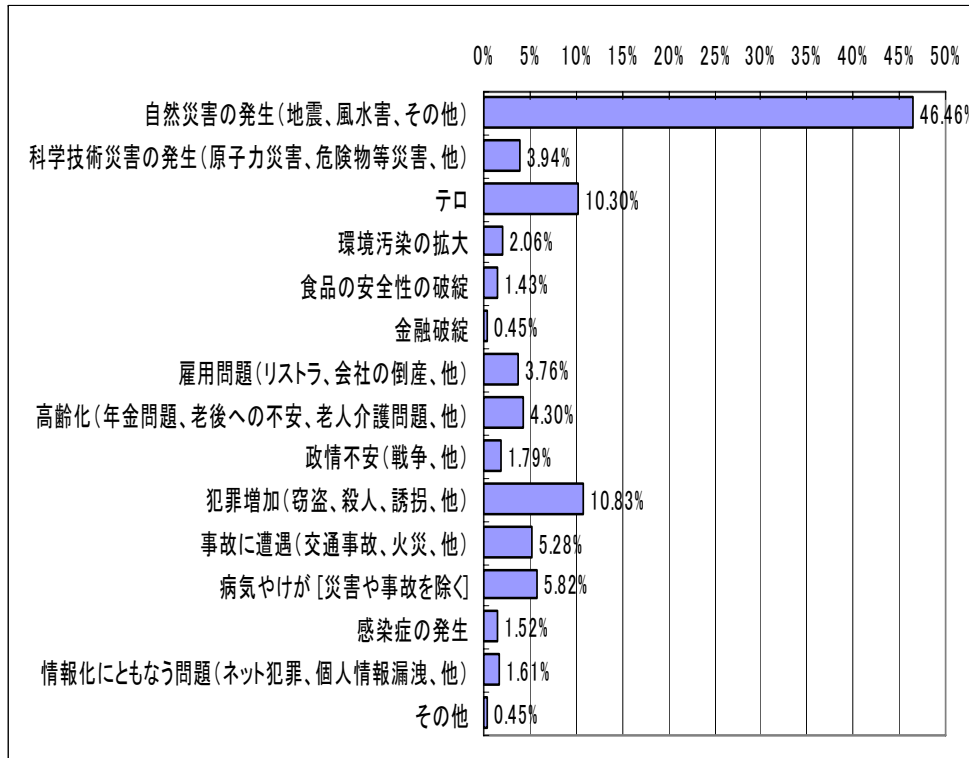
- 最も「不安」という回答の率が高いのが「犯罪」(38.1%)であり、これに「化学物質汚染」(35.1%)、「大気汚染・水質汚濁」(33.9%)、「地球温暖化問題」(31.9%)などの環境問題、「交通事故」(33.6%)、「地震・津波被害」(27.1%)等が続いている。
- 近年問題が顕在化している「テロ」(24.7%)、「SARS、AIDSなどの感染症」(25.0%)も比較的高い結果となっている。

- 「強力な対策の強化・改善が必要」という回答も「犯罪」(55.0%)が一位であり、全体に問3と概ね同じ傾向となっているが、「原子力事故」(37.8%)、「コンピュータ犯罪」(33.4%)等で不安感の低さに比べて対策強化への要望が大きくなっている。逆に「交通事故」(27.4%)については不安感が大きいにもかかわらず、対策強化を求める意見は少なくなっている。

安全意識に関するアンケート調査

- 手法: インターネットによるアンケート調査
- 調査期間: 2004年9月18日から21日
- 回答数: 1,476通

個人として最も脅威と感じる危機



半数弱が自然災害の発生を脅威と感じている。次いで、犯罪・テロが上位を占める

脅威と感じる理由

	地震災害	交通事故	食品リスク	犯罪	感染症
頻繁に発生する	5.4%	61.8%	16.3%	47.5%	9.2%
一旦発生すると被害が大きい	41.3%	10.2%	9.0%	4.2%	19.3%
避けることができない	49.6%	21.3%	11.5%	17.9%	11.9%
行政などによる対策が万全でない	2.6%	3.9%	47.0%	23.4%	27.5%
知識が少なくどうすればいいかわからない	1.2%	2.1%	15.8%	6.6%	31.2%
その他	0.0%	0.7%	0.5%	0.5%	0.9%

注) 青字は20%以上を占めている項目を示す。

将来の科学技術に対する市民のニーズ

市民が重視するニーズ(上位5項目)

一般市民を対象として、ニーズの重み付けアンケートを実施

手法: 調査会社登録者が、web上で回答。予め用意した項目を一対比較、結果を積み上げ。

回答: 約4300名

(日本の人口構成比と同様の年齢・性別分布)

結果: 自分の身の回りの話題、よく見聞きする話題を重視。

犯罪・テロの発生を防ぐが上位

失いたくないニーズ	さらなる豊かさへのニーズ
心の健康を維持する	心配事なく暮らす
仕事、能力に見合う収入を得る	自分らしさを磨く
栄養バランスの良い食事をとる	家族や友人などと深い関係を築く
病気・けがに負けない体をつくる	いつでもどこでも情報が得られる
犯罪やテロの発生を防ぐ	生活環境を便利にする
(その他項目) 服装・身なりの維持、住まいの維持 小中学レベルの知識習得、高校レベルの知識習得、社会性の習得、豊かな人間関係の構築 高齢者・障害者の健康維持、介護者支援、高齢者・障害者の生活支援 交通事故防止、犯罪事故の被害軽減 災害の的確な予知、地球環境保全、災害被害軽減	(その他項目) 快適さ追求、自由な暮らし、おしゃれ いろいろ教えてもらえる環境 高い評価や尊敬、高収入 幅広い人間関係 社会活動参加、国や国際問題解決に貢献、社会的弱者・被害者の支援

ニーズの抽出と集約

既存資料、インタビューをもとにニーズ項目を抽出、構造化。市民ウェブアンケート、有識者・市民・経営者パネルによる議論を経て、ニーズを集約。

ニーズ12項目のうち2項目が安全・安心関連

ニーズ12項目

科学技術の成果で日本が一目置かれる国であり続ける
科学技術の未踏領域への挑戦で夢や希望を得る
地球規模の問題の解決に積極的に貢献する
新たな産業分野を開拓して、日本が経済的な国際的競争力を維持し続ける
持続可能な社会システムを目指した新しい仕組みを構築する
社会の構造変化に対応する(少子・高齢化、人口減少に対応する)
社会が平和で安全・安心に暮らせる(交通事故・犯罪・テロを回避する)
災害に強い
健康に生活できる
個人の可能性が広がって、生活の豊かさが実感できる
誰もが家庭や社会でやりがいを持ってそれぞれの役割を担い、互いに助け合う
子どもも大人も目的を持って学び、真の学力を養う